

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第744号（令和八年二月号）

- ・表紙：「早春／梅の花」
- ・来月号（三月号）の兼題



<季語：早春（初春・時候）：子季語：春浅し、春さき>

- ・立春間もないころ。春とはいえ寒さの厳しい時季。しかし、川の流れや山々の様子などに春の気配、息吹を見出すのもこの頃。

「有名俳人の句」

- | | |
|----------------|-------|
| ・早春や道の左右に潮満ちて | 石田波郷 |
| ・早春の鶴の背にある光の輪 | 富沢赤黄男 |
| ・早春の山窓にある日の粗らさ | 細見綾子 |
| ・楽器函ほどの早春の水車小屋 | 鷹羽狩行 |

<季語：梅（初春・植物）：子季語：花の兄、春告草、匂草、他>

- ・梅は早春の寒気の残る中、百花にさきがけて白色五弁の花を開く。「花の兄」「春告草」とも呼ばれ、その気品ある清楚な姿は、古くから桜とともに日本人に愛され、多くの詩歌に詠まれてきた。香気では桜に勝る。

「有名俳人の句」

- | | |
|------------------|------|
| ・梅が香にのつと日の出る山路かな | 松尾芭蕉 |
| ・むめ一輪一りんほどのあたたかさ | 服部嵐雪 |

- | | |
|-----------------|-------|
| ・山川のとどろく梅を手折るかな | 飯田蛇笏 |
| ・梅一輪踏まれて大地の紋章たり | 中村草田男 |
| ・梅白しまことに白く新しく | 星野立子 |

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された11名の54句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者（敬称略）>

14点 恵吾、12点 碧亥、7点 温州、甲舟、穂心

<高得点句（4点以上）>

- 蹲踞に過ぎる時雨や煎茶の香／碧亥・・・・・・4点
- 鍬を振る農夫の影や大焚火／碧亥・・・・・・4点
- 年の瀬や負けるが勝ちの夫婦仲／恵吾・・・・・・4点
- 暦買ふ戦後八十一年目／穂心・・・・・・4点
- 片付けの合間に湯漬け一茶の忌／要・・・・・・4点

☆その他のトピックス

1. 今月号の清記

◎今月は10名の方が合計50句を出句されました。

2. 近況報告

◎今年初めての同人誌です。

同人各位より新年のご挨拶がありました。

- 穂心様・・・今年は第15句集の発行年です。自選句30句とともに皆様のこれまで振り返ってエッセーの投稿も併せてお願ひします。
- 六甲様・・・「ひのえうま」の年、政治、経済、外交等多難が待ち構えている年、頑張りましょう。
- 勝様・・・昨年夏は高温が続き全国を悩ませました。

「夏過ぎて冬来にけらしおでんかな」

日経俳壇の選者・神野紗希が昨年の優秀句に選びました。

季重なりなどを通り越えた句が選ばれています。

日本の四季が二季になったという人もいます。

地球温暖化、国際紛争の中で日本はどう生きるか、また高齢者はどう生きるかなど考えさせられますが、とりあえずは静かに俳句の境地で生きていくことにします。

- 碧亥様・・・今年も四代12名が恒例の年末年始の会食を無事終えることができました。これからは一年一年が特別な人生となってきます。覚悟して生きていこうと考えています。
- 善富様・・・昨年夏長姉がなくなりました。大晦日に二つ違いの妹も急逝しました。妹の旦那は元芦火同人の故・藤田英夫氏です。・・・ご愁傷様です。
- 要様・・・NHK短歌で、次の句が、佳作入選しました。

「老体引つ提げ通う野球帽 優勝の夜の六甲嵐」・・・要様、おめでとうございます！

3. ご意見

◎修平様より、高齢化に伴う会員の減少および活力の減退を憂い、コメント、ご意見を頂いていますのでご紹介します。

『柑芦会にはいくつもの趣味の会や同好会があり、それぞれ熱心に活動されていますが、各会に共通する課題は高齢化と会員数の減少です。

私（修平様）は「つれもて会」という歩こう会に所属するとともに、「川柳サークル」という川柳クラブをお世話しております。

まず、「つれもて会」は昭和63年（1983年）に発足し、ほぼ毎月例会を実施してきた結果、昨年12月で447回を数えるほどの歴史を有しています。参加者は発足時の9名から最大で40名を超える時期もありましたが、現在では平均20名程度に落ち込んできています。高齢化に伴い退会者が増加する一方で新規加入者が少ないと理由です。

この状況を打破し活動を継続して活性化するためには、新規加入者の増加が必須です。そこで「つれもて会」では、「芦火」と同じく柑芦会のホームページと機関紙「芦火」に毎月活動記録を掲載するだけでなく、独自にSNSの一つであるフェイスブックにもグループを設定して、そこに毎月の案内状や報告書を掲載しております。

紙ベースの記念誌などは100回ごとに発行するにとどめています。

また毎月の案内状や報告書の配信も郵送ではなく、電子メールで行っています。

一方、「川柳サークル」においては、毎月の投句や互選の投票や結果報告もすべてフェイスブック上で行っています。

そのおかげもあって、メンバーは大阪や神戸だけでなく、和歌山や名古屋、東京からも参加しています。年代的には、最高齢15期、最若手33期（63歳）と幅広い年齢層で構成されています。

「芦火」においても、こうした他の会の活動や工夫を参考にできる部分があればと考え、新参者にもかかわらず僭越ですが、ご紹介させて頂きました。』

4. 隨想

◎温州よりの随想文

〈新年会を開催しました〉

『去る一月十二日に神戸支部・大阪支部共同で新年会を開催しました。

神戸支部、大阪支部を始め他支部、大学、柑芦会本部、他学部からの参加者も含め総勢四十九人が湊川神社・楠公会館に集いました。

今年の催し物は、恒例の和太鼓演奏に続き、プロの書道家による書道パフォーマンスがあり大いに盛り上りました。実はこの書道家は教育学部52期卒の田村友翠様でありまして、全国を股にかけ活躍されています。彼女には柑芦会創立百周年を記念して力強い「飛躍」の文字を揮毫して頂きました。

また、午後の部では、子供たちに音楽の楽しみを教える活動をされている「子供の軽音楽部」様に昔懐かしいG Sソングやポピュラーソングをピアノ、ギターそしてボーカルで演奏して頂き大いにリラックスして楽しいひと時を過ごしました。

更に、お年玉を二十名の方にプレゼントしました。

内容としては、九州支部石川支部長様よりご寄贈頂いた表面が「詰将棋」の図柄の図書カード五百円分二十枚を支部長の私との「じゃんけん」で勝った方にプレゼントするというものです。

この様に、例年とはひと味違った催し物で皆様には大いに楽しんで頂けたのではないかと思っております。』



◎穂心様よりの新年会に参加してのご感想および即吟

『(湊川神社の) 新年の初詣、今年は着飾る人の数が少なかったような気がします。諸物価の値上がりも影響しているのでしょうか。初詣の人ではそれなりにあったようですが、和服姿は減ったように思いました。十日戎も過ぎ、成人式の神社詣では祝日ですが閑散としています。

- ・角付けの獅子舞休む駐車場
- ・福袋や灯火戎の帰り道
- ・別姓へ踏み出す前の女正月
- ・手水舎の柄杓に流す寒の水
- ・実千両トイレに飾る気付きかな 』

〈俳句の会「芦火」概要〉

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の11名
- ・昭和38年(1963年)結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年(2022年)6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名(高商32名、高商教授1名、大学39名)

＜編集者・コンタクト先および会費＞

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先；
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）